# 鯉城

題字は塩田宏司(洲鵬)氏

第74号

広島市中区国泰寺町1丁目2番49号
〒730-0042　広島国泰寺高等学校内
鯉城同窓会
電話(082)241-9777　FAX(082)248-7341
E-mail　rijo@orion.ocn.ne.jp
URL　http://www.rijo.site

## 財政ピンチ解消めざし
# 寄付の協力呼びかけ

執行部
会長　森信

同窓会の財務状況の悪化に伴い、執行部は収支バランスの改善に向け、さまざまな方策の展開を計画している。森信秀樹会長が会員の皆さんに、次の内容の協力を呼び掛けた。

皆さんこんにちは。例年より数か月早く会報をお届けさせて頂きます。コロナ禍で昨年同様秋の定時総会の開催が危ぶまれる中、会報編集委員会の皆さんにご無理をお願いし実現致しました。これまでは総会の華やかな報告を中心に師走にお届けしていたかと思います。

収支の改善などが話し合われた幹事会（7月7日）

さて、まずは7月7日開催された幹事会で前年度決算・事業報告と本年度の予算・事業計画等が承認されたことをお知らせいたします（3ページ参照）。ご覧いただきますと現在の同窓会の置かれている厳しい状況等がご理解いただけると思います。前年決算の欄では、コロナ禍でどなたも大変な時期ではありながら、幸いにもサポーター制度寄付（以下寄付と略記）は、例年を上回ることができました。ご協力いただきました830名余の方々には心から感謝申し上げます。

「持続可能な同窓会に」と幹事会で訴える森信会長

しかしながら支出では会報発行送付や二木会の出欠取りまとめ等で費用が増えるなどにより、残念ながら剰余金を一部取り崩すこととなってしまいました。この事態を私どもはじめ役員一同は大変重く受け止めております。これを受けて本年は固定費の見直しを行うとともに、母校振興・会報の発行送付や当番幹事の二木会等運営を安定的に行うべく「単年度収支の黒字化必達」を目指して、支出額から必要収入額を逆算定致しました。

このため寄付額は500万円と例年の2倍になりました。これはそう簡単には達成できない目標ではありますが、役員はじめ学年幹事さん総がかりで広くお声掛けをしてその達成に向けて汗をかくとともに、「入りを量りて出ずるを為す」の精神で前例にとらわれず持続可能な同窓会を目指すことをお約束いたします。

この会報を手に取られている2万2千名余の皆さんは、これまでに終身会費や年会費等をご負担頂いておりますが、今やそれだけでは運営経費が賄えない事態にあるということを是非ともご理解頂きたいと思います。そして、同窓会のご支援のため、無理のない範囲で結構ですので毎年サポーター寄付をお願い致します。

最後に、当番幹事（平成10年卒）により本年二木会は当面ZOOMによるオンライン開催となっています。このことにより全国どこからでも、お手持ちのスマホ等で講演や応援団の演武など視聴できますので、ホームページから参加申し込みをしてください。折り返し「ご招待メール」をお送りさせていただきます。メール記載のURLをクリックすると参加可能です。感染ステージが下がりましたら、同窓会館でのリアルの二木会も開催したいと思っております。皆様のますますのご健勝を心より祈念申し上げます。

## 分かりやすく教えて…
# 収支関連のQ&A

収支改善に向けた森信会長と財務委員会の考え方を、1ページに掲載した。会員の皆さんに状況をより深く理解していただくため、一問一答の形で会長から分かりやすく説明してもらった。

### 終身会費では賄えない状態

**Q** まず収支バランスが悪化している点について、かみ砕いて説明して下さいますか。

**A** 収入では定時制が閉課程となり今後は全日制卒業生のみの入会となります。平成27年度に会計の健全化を目指して創設されたサポーター制度寄付でしたが当初は650万円、豪雨災害の同30年には850万円もご寄付いただきましたが、近年は250万円前後で推移してきました。

一方、支出では会報の送料や名簿管理システムの改変等もあって固定費が徐々に増え、結果これに見合う収入が確保できずこれまで同様、支出超過の状態にあります。

皆様には終身会費等をお支払い頂きましたが、それでは賄えない状態となっています。

### 寄付者は3.5%前後 剰余金減るばかり

**Q** 具体的には、どんな支出が圧迫要因になっているのでしょうか。

**A** 会報は昨年24000部発行し、お手元にお届けしています(印刷・送料計125円／1部)。その際サポーター制度寄付の振込用紙を同封していますが、実際にご寄付いただいている方は830人前後(3.5%)にとどまっています。

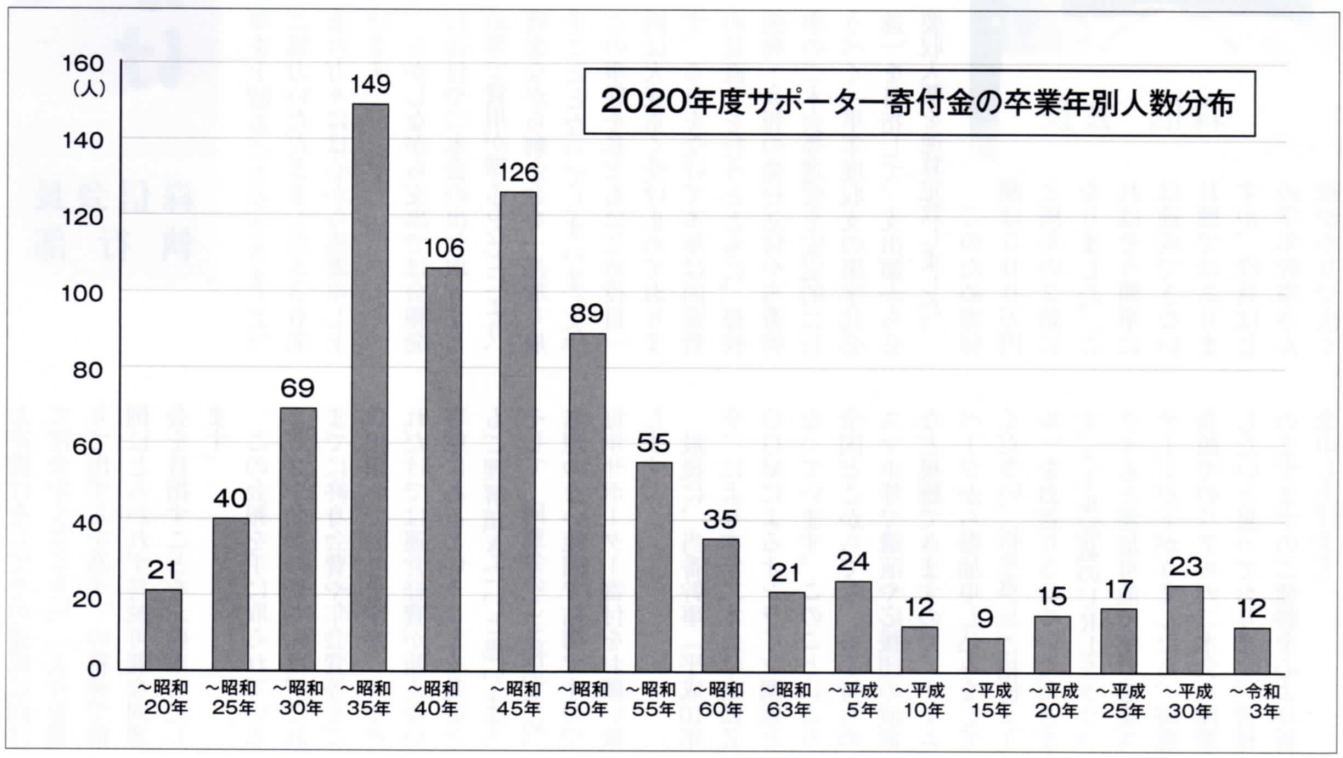
おかげさまで令和2年度は250万の見込みに対して340万円のご寄付を頂き、一安心しましたが、二木会開催におけるコロナ対策費や往復はがきなどで支出が増え、結果として剰余金を150万円

### ふるさと納税を母校振興に還元

**Q** 母校のお役に立ちたいのですが、方法を教えてください。

**A** 母校振興費としてクラブ活動に対して備品等購入の支援を行っていますが、クラブOBの方々には、ふるさと納税制度を活用した県教委の「学びの変革推進寄付」(QRコードを読み取って下さい)を使って、「国泰寺高校○○○部に寄付する」と指定して(納税)していただければ、学校を経てクラブに直接届きます。ふるさと納税は来年払う住民税を今年早めに納めるというイメージです。ただし納税返礼品はありません。

県教委
「学びの変革
推進寄付」



減らしてしまいました。申し訳なく思っています。

## 会報発行部数の見直しなど必要

**Q** 事態を改善するために、今考えている方策があれば。

**A** 本年度の予算組みでは、会報発行部数の見直しをはじめ固定費も見直しています。しかし単年度黒字化を目指すためにはどうしても収入（寄付）を増やすしかありません。

会員の皆様にはこの厳しい現実をご理解いただき、同期の方々にも実情を広く拡散していただきたいのです。もとより来年度は支出についてさらなる見直しをするつもりです。このため、財務・総務両委員会には健全化策の検討をすでにお願いしています。

## サポーター寄付は最低2千円以上を

**Q** 会員の皆さんへは、具体的にどんな協力を要望しますか。

**A** 昨年より、サポーター寄付は最低2千円以上をお願いしています。会報を引き続き印刷紙で読みたいと思われる方はぜひとも応分のご負担としてご寄付をお願いいたします。また、電子版でもよいとお考えの方は同封のハガキでメールアドレスをお知らせいただければ、併せて会合案内なども

メールでお送りさせていただきます。

また、今回から郵便振込に加えて広島銀行口座を復活しましたので、ネットバンキング等での振込も可能です（同封の振込用紙を参照ください）。

### 令和2年度決算（令和3年3月31日現在）・令和3年度収支予算（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

Ⅰ 一般会計

（収入の部）　（単位：円）

| 科　目 | 令和2年度決算(A) 令和3年3月31日現在 | 令和3年度予算(B) | 増減(B-A) | 説明および摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 1 前年度繰越金 | 5,175,851 | 3,463,522 | △ 1,712,329 | |
| 2 会費収入 | 3,239,319 | 3,069,000 | △ 170,319 | |
| 入会金(@3,000円) | 849,000 | 831,000 | △ 18,000 | 全日制277人 |
| 終身会費(@7,000円) | 2,371,319 | 2,219,000 | △ 152,319 | 全日制277人<br>過年度卒業生(S47年～S63年)40人 |
| 年会費(@1,000円) | 19,000 | 19,000 | 0 | 過年度卒業生19人 |
| 3 寄附金収入 | 3,581,044 | 5,300,000 | 1,718,956 | |
| その他寄附 | 270,000 | 300,000 | 30,000 | 事務局に現金持参 |
| ｻﾎﾟｰﾀｰ制度寄附金 | 3,311,044 | 5,000,000 | 1,688,956 | 振込用紙等による寄附金収入 |
| 4 雑収入 | 151,117 | 151,000 | △ 117 | |
| CD(校歌・鯉城の夕)販売 | 0 | 1,000 | 1,000 | |
| 利息等雑収入 | 151,117 | 150,000 | △ 1,117 | 受取利息、公衆電話使用料、奨学財団事務受託費ほか |
| 5 当期収入計 | 6,971,480 | 8,520,000 | 1,548,520 | |
| 6 収入合計 | 12,147,331 | 11,983,522 | △ 163,809 | |

（支出の部）

| 科　目 | 令和2年度決算(A) | 令和3年度予算(B) | 増減(A-B) | 説明および摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 7 事業支出 | | | | |
| 会報発行費 | 3,014,533 | 2,900,000 | 114,533 | 会報誌作成23,000部、印刷、封入(ｾｯﾄｱｯﾌﾟ)・宅配ほか |
| 事業費 | 185,544 | 0 | 185,544 | 令和3年度は事業経費各科目へ移行 |
| 二木会助成(当番幹事) | 900,000 | 900,000 | 0 | 二木会・総会運営等、当番幹事活動費 |
| 消耗品費 | 242,962 | 243,000 | △ 38 | コピー紙等事務用品、zoom二木会実施に伴う消耗品、その他消耗品ほか |
| 母校振興費 | 526,660 | 768,000 | △ 241,340 | 母校生徒への支援（校友会支援、卒業式、入学式等の事業に伴う経費） |
| 顕彰費 | 63,195 | 100,000 | △ 36,805 | 会長顕彰顕彰楯作成ほか |
| 会議費 | 118,659 | 150,000 | △ 31,341 | 役員会・幹事会及び各委員会活動等各種会議に要する経費 |
| 通信運搬費 | 736,068 | 250,000 | 486,068 | 郵便切手・ハガキ及びメール便等 NTT基本料金及び利用料金等通信関係 |
| 印刷費 | 53,790 | 50,000 | 3,790 | 封筒、同窓会入会しおり等 |
| 慶弔費 | 6,366 | 10,000 | △ 3,634 | |
| 一中慰霊碑献花料 | 42,900 | 45,000 | △ 2,100 | 単価(月2回)×12ケ月+2回 |
| 事務費 | 1,823,680 | 1,500,000 | 323,680 | 事務運営・管理 |
| 光熱水料費 | 111,529 | 105,000 | 6,529 | 事務室電気料・空調料、公衆電話年間電気使用料 |
| HP更新・システム管理更新等 | 485,832 | 794,000 | △ 308,168 | 会員ﾃﾞｰﾀ用、二木会用、事務用(PCﾘｰｽ代及びｿﾌﾄ使用料、web更新・保守管理等)　HP更新管理など |
| 会館管理費 | 175,025 | 414,000 | △ 238,975 | 同窓会館の維持管理に要する経費、(AEDﾘｰｽ料及び週2回モップ交換及び月1回清掃・年1回waxがけ) |
| 修繕・保守点検費 | 72,600 | 80,000 | △ 7,400 | 階段式昇降機保守点検費(年1回) |
| 手数料 | 5,506 | 10,000 | △ 4,494 | 振込手数料等 |
| 雑費 | 118,960 | 50,000 | 68,960 | 科目にない経費等 |
| 8 当期支出計 | 8,683,809 | 8,369,000 | 314,809 | |
| 9 次年度繰越金 | 3,463,522 | 3,614,522 | △ 151,000 | 次年度繰越金 |
| 10 合　計 | 12,147,331 | 11,983,522 | 163,809 | |

Ⅱ 基金

| 科　目 | 令和2年度決算(A) | 令和3年度予算(B) | 増減(A-B) | 説明および摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 鯉城同窓会基金 | 11,079,757 | 11,079,757 | 0 | |
| 教育振興基金 | 16,500,000 | 16,500,000 | 0 | |

# 試行錯誤の二木会開催

## 4月からオンライン
### 多くの会員の参加訴え

マスク着用などを条件に二木会を開いた時期もあったが、今や完全にリモート開催

コロナ禍により、二木会も大きな打撃を受けた。開催のあり方をめぐって、当番幹事や運営委員会、事務局が何度も論議を重ね、その都度変更を繰り返した。試行錯誤は現在も続いている。

長くリーガロイヤルホテル広島で開かれていた二木会は、昨年4月から3カ月連続で中止になった。広島市のフラワーフェスティバルをはじめ、大きなイベントが軒並み中止に追い込まれている状況の中、二木会を強行開催するという選択肢はとてもなかった。全国のコロナ感染者の数の増減に一喜一憂する状態が続いた。

7月から二木会が再開されたものの、テーブルの大皿から小皿に取り分ける方式をやめ、参加者各自に弁当を用意するスタイルに変わった。お互いの接触をなるべく少なくする配慮である。会場では基本的にマスク着用。アルコール飲料の摂取も控えめにし、大声での会話を慎む雰囲気が定着。9月、10月もこの形で開催された。

しかし、コロナ禍は収まる気配を見せず、年が明けても中止状態が続いた。このままではいけないと、4月から「二木会のオンライン開催」の試みがスタート。苦肉の策ではあるが、当番幹事の皆さんらの取り組みが実を結んだ。東京、大阪、愛媛など広島県外からの参加も多い。

同窓会運営委員会は「ぜひ同窓会のホームページから、一人でも多くの方に参加していただきたい」と呼びかけている。

## 「さらなる工夫を」
### 当番幹事代表 佐東さん

当番幹事代表の佐東美亮さん

暑さ厳しき折ではございますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

はじめまして。令和3年度二木会当番幹事代表に就任しました平成10年卒の佐東美亮と申します。

今後は、ひとりでも多くの卒業生の方に喜ばれる二木会を目指します。とは言え昨年から続くコロナ禍で例年通りの二木会は開催する事が出来ず、前年度当番幹事も苦しい運営を行う中、我々に引き継ぎをしていただきましたが、このままでは、二木会を開催する事は難しいという認識は、我々の中で共有しておりました。

どうすれば開催できるのか、具体的な策が無い中、Ｚｏｏｍ等を利用したオンラインでの開催の案が当番幹事の中で出たのですが、確かにオンライン開催にすれば、コロナの感染リスクは抑えられるものの、同窓会に求められている、学友や先輩後輩との交流、会食等の目的が果たせないため、そもそも提案しても受け入れてもらえないのではないか、と考えておりました。

ただ、例年通りの二木会を計画しても、開催する事が出来ないので、開催するならばオンライン開催しかないのでは、という意見で一致していたので、事務局、役員の方に相談しましたら、オンラインにしても開催をするべき、というご意見をいただき、皆様のバックアップをいただきオンライン開催で計画を進める事になりました。

しかし、オンライン開催と言いましても、その為のノウハウを当番幹事のメンバーでは持ち合わせていない為、その道のプロフェッショナルにサポートいただく必要がありました。サポートいただく事で何とか開催にこぎつける事が出来ました。

無事二木会をオンラインで開催するという最低限の役割は果たす事が出来ましたが、同窓会に求められている目的は達成できていない為、今後は、ただ画面上で流れている配信を観るだけでなく、オンライン上で参加者同士が交流したり出来るように工夫をしていければと考えています。

# 11月20日に同窓会総会

鯉城同窓会の今年の総会は、11月20日（土）午後3時から5時まで、同窓会館で開かれる。

コロナ禍の現状を踏まえて、飲食の伴う懇親会は取りやめる。第1部を「総会」、第2部を「講演会」の構成にし、講演会は1時間程度を予定。講師は同窓生に限らず、話題性の高さなどを考慮して人選を進めている。

コロナ感染者の推移による流動的な要素もあり、ワクチン接種の状況などを踏まえながら、さらに計画を詰めていく。

今後の詳細については、同窓会ホームページを参照していただきたい。総会運営担当の当番幹事は、平成10年卒業生が務める。

## 栄えある顕彰

該当する同窓生の方々は次の通り。（敬称略）

**〈叙勲・褒章〉**
（令和3年春）
▽旭日双光章（保健衛生功労）
澤崎晉一＝昭35年卒
▽瑞宝小綬章（郵政事業功労）
戸田睦治＝昭40年卒
▽瑞宝双光章（国土交通行政功労）
中塚章仁＝昭41年卒
▽瑞宝双光章（消防功労）
花戸利裕＝昭50年卒
▽瑞宝双光章（防衛功労）
福本雅彦＝昭54年通卒
▽瑞宝双光章（防衛功労）
石井政浩＝昭55年通卒
（令和2年秋）
▽瑞宝小綬章（警察功労）
中本秀人＝昭38年卒
▽瑞宝双光章（防衛功労）
岡村好明＝昭43年通卒
▽瑞宝双光章（防衛功労）
木津忠則＝昭43年通卒

**〈文部科学大臣表彰〉**
（令和2年12月）
▽図書館関係者表彰
藤井寿美枝＝昭48年卒

# 「自立」から「自律」へ
## 大林校長が新任の抱負

大林秀則校長

今年度の人事異動により、呉三津田高等学校から着任いたしました。歴史と伝統ある広島国泰寺高等学校で勤めさせていただくことに対し、大変光栄であると同時に、身の引き締まる気持ちでおります。微力ながら精一杯頑張っていく所存でおりますので、よろしくお願い致します。

ところで、年度当初の始業式において、生徒に話した「自律」について紹介します。

「自律」には、「自立」から「半自律」へ、「半自律」から「自律」への3段階があると言われています。これを方程式に例え、「自立」は3＋5＝Z、「半自律」はX＋Y＝8、「自律」はX＋Y＝Zという方程式が該当すると考えています。プロセスが与えられておりゴールを求めるのが「自立」、ゴールが与えられておりプロセスを考えるのが「半自律」、ゴールもプロセスも自分で考えるのが「自律」です。本校の生徒もそうですが、与えられたことを着実に実行することはできても、ゴールもプロセスも自分で考えることにはかなりのハードルがあります。先行き不透明な今の時代、「自律」するための力を身に付けさせる必要性を痛感しております。今後は、多くの生徒が「自律」し、国際社会で大きく羽ばたいてくれるよう、教職員一丸となって指導に当たりたいと考えています。

最後になりましたが、鯉城同窓会の発展と会員の皆様の御健勝を祈念いたしますとともに、今後とも本校並びに在校生への御支援を賜りますようお願い申し上げます。

**〈略歴〉** 昭和60年、広島大学理学部数学科卒業。呉宮原高校、広島国泰寺高校教諭などを経て、福山工業高校、呉三津田高校校長。令和3年4月から国泰寺高校校長。

**鯉城関西同窓会総会**
来年 3月13日(日)
開催 11:00
未定

**鯉城東京同窓会総会**
今年 11月10日(水)
開催 18:30
東郷神社内「ピーターハウス」

# 定時制・通信制　新たな船出

国泰寺高校定時制課程と通信制課程（現県立西高校）は今春、それぞれ最後の卒業生を送り出し、若者から年配者までの多様な向学心を受け入れ続けた昭和からの歴史の幕を閉じた。両課程とも広島都市圏の定時制と通信制の公立高再編に伴い、4月から広島市立広島みらい創生高（広島市中区）に集約された。

## 記念碑「窓灯」を設置
### 79年の歴史4325人巣立つ

国泰寺高校の正門近くに設置された定時制課程の記念碑「窓灯」

### 定時制課程

創設は昭和17（1942）年4月。県立広島第一中学校内に県立広島夜間中学校として併設され、84人の入学生を迎えた。その翌年には県立広島第三中学校と改称された。

戦後の学制改革により、昭和23（1948）年、鯉城高校夜間課程となり、翌年に国泰寺高定時制課程となった。

企業の工員養成校などで学ぶ社会人だけでなく、大学進学を目指す若者も多く入学した。とりわけ昭和40年代半ばには50人学級が4クラス編制されるほどで、4学年で800人余りの生徒が学んだという。

卒業生でつくる広島国泰寺高等学校定時制振興会の月村俊雄会長（78）は昭和35年4月に入学。「進学熱は全日制より高かった」と振り返る。同級生の多くが難関の国立大、私立大に合格。こうした環境に月村さんも「大いに刺激を受けた」と懐かしむ。

定時制の生徒と保護者、学校をつなぐ学校通信「国泰寺生活」によると、第72回となる今年2月の卒業式では13人を送り出した。その直後の閉課程式では、校庭に設置した記念碑「窓灯」の除幕式をし、出席者は創設から79年間の歴史に思いをはせた。記念碑には「窓灯　夜習いの窓の灯ここにあり」との碑文が刻まれている。

鯉城同窓会事務局によると、これまでの卒業生は4325人を数えるという。

## 校門前に閉校記念碑
### 西高移管までに4347人

校訓や沿革などが刻まれた県立西高閉校記念碑

### 通信制課程

戦後の学制改革に伴い、昭和23（1948）年、鯉城高校通信教育部としてスタートした。翌年、国泰寺高通信教育部となった。

昼間に働いている若者たちを中心に、学びの機会を提供。課題のリポートを郵送したり、仕事の合間を見て登校し、クラブ活動をしたり、時間が許す限りの高校生活を楽しんだという。

鯉城同窓会副会長の桑原佐智江さん（77）は親類の割烹旅館に住み込みで働きながら、13年かけて卒業した。この間、中国5県の通信制課程に通う高校生が国泰寺高に集い、特技を披露するイベントに参加。自らは同級生たちと広島音頭を舞った。また、修学旅行には2回参加。ダンスクラブも結成し、登校した仲間たちと楽しんだ。

思い出の一つは昭和46年10月24日の日曜日にあった第1回運動会。「芝生スタンドでみんなが集まり弁当を食べたのは忘れられない光景」と話す。

当時は、通信制、定時制、全日制の生徒たちが交流する三課程交歓会も開かれ、同じ校舎で学ぶ生徒たちの代表が親交を深めた。

鯉城同窓会事務局によると、県立西高校として独立した平成3（1991）年までに4347人が卒業した。西高校は3月末に閉校。通信部創設から73年の歴史に終止符を打った。校門前には西高校閉校記念碑が建立され、「校訓　自己実現」や沿革、校歌が刻まれている。

# 私の近況

## 原民喜の遺志 永遠に継承を

昭和28年卒　原　時彦

昭和26年3月13日は、叔父、原民喜の命日である。私がその知らせを受けたのは、翌14日の午後、母校、広島国泰寺高等学校のグラウンド上であった。

私は、この年の秋、ここで開催される予定の「第6回国民体育大会秋季大会、府県対抗蹴球試合高校の部」の代表校を目指す強化合宿に参加し、猛練習のただ中であった。

筆者の原さん

計報の電話によると、叔父から父宛てに残された遺書に、私を著作権後継者との指名があったと。…爾来、私は民喜文学の伝播、伝承、核兵器廃絶を目指して、「広島花幻忌の会」を結成し、今日に至っています。

今年の3月13日は、没後70年を迎えましたが、コロナ禍で止むを得ず、原爆ドーム東側、原民喜詩碑前で朗読会を献じ、碑前祭の後、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館主催の行事に参加、その他一切の行事は延期、縮小して地道な平和活動のみ継続いたしました。

（広島市南区）

## 地域活動に献身 今は楽しい日々

昭和35年(通)卒　山中　孝博

私は江田島市沖美町という、小さな島にある海辺の町に住んでいます。宮島の南東に位置する能美島という島です。フェリーに乗れば40分ほどで、広島市の宇品港に行けます。途中「安芸の小富士」と呼ばれる似島を見ることもできます。

町の沖合にはカキ養殖の筏がたくさん浮かんでいます。それでお分かりのように、カキ養殖が盛んな土地柄でもあります。

私はかつて町役場（江田島市になる前の沖美町役場）に10数年勤めた後、地元の漁業協同組合に転職。地域の皆様に支えられて、町会議員としても活動させていただきました。

おかげさまで平成21年4月、「旭日双光章」を授与されるという栄に浴しました。自分には身に余ることでしたが、生涯忘れることのできない、ありがたくうれしいことでした。

今年で88歳になります。健康維持のため、地域の百歳体操やデイサービスに通い、楽しい日々を過ごしています。卒業生の皆様、鯉城同窓会の皆様に感謝申し上げます。それとともに、母校のいっそうのご発展を、心よりお祈り申し上げます。

（広島県江田島市）

## 経歴多彩な仲間 働きながら学ぶ

昭和37年(定)卒　小林　幹郎

昭和33年の入学式は講堂（体育館）が新築工事中で、屋外（現在の慰霊碑の前あたり）で行われた。新入生の出身地は広島市内から県内外まで多岐にわたる。年齢も中卒からそのまま入学した最年少から、数年のブランクを経てからの最年長まで、同期といえども6年の差がある。

全員就職した社会人でもあった。勤務先は大手の三菱重工や東洋工業（現マツダ）は例外で、大半は中小企業か個人商店、女性は医院、電電公社、デパート等も。就職斡旋担当の先生により入学後転職した人も多い。

自分の時間が少ないのが共通の悩みで、交友も部活も登校中の校内に限られる。住み込みの人は帰ればまた仕事をさせられる。当時は世の中多くの人は貧しかったし、それが日常の生活だから、校内で不満を口にすることは少なかったとは思うが、心の底までは知る由もない。

平成 25 年の同期会

それでも皆よく学び、それぞれが精一杯に高校生活を楽しんだと思いたい。4年生まで12クラスあったから校内はにぎやかで、先生方も皆親身に向き合っていただいたのは感謝である。

卒業式の日は夕刻から降りしきる雪の夜となり、帰りはくるぶしまで積もった。人生残り時間も先が見える今頃になって、主事の畠山先生が祝辞の中で「これからは〝定時制〟卒ではなく国泰寺高校卒業生として…」と述べられたのを思い出し、どうせなら金子校長から聞きたかったな、と話すこともある。

同期137人中既に20人（判明分）が他界、卒業後の消息不明が34人と多いのも定時制なるが故であろう。最年長のレジェンド今村君の尽力で始まった同期会も今はコロナ禍で開けないのが残念。同期会は「さみどり匂う…」斉唱で閉会となるのが恒例である。

（広島市安佐南区）

## マレーシア拠点に 各国への旅楽しむ

昭和43年卒
磯野(旧姓 松本)　サトミ

高校を卒業して半世紀以上経ちました。本当に夢のように月日は過ぎ去っていきました。

私は1969年にハワイに渡り、ハワイ大学を卒業した後、ハワイ島出身の主人と結婚して17年間ハワイに住みました。その後シ

# 私の近況

## 「おふくろ」に感謝し公認会計士の道歩む

昭和41年卒　石橋　三千男

私は、広島カープ初優勝の日、昭和50年10月15日から公認会計士としてスタートしました。早や半世紀近く。算盤・電卓・パソコンへ世も移ろう。

今回の原稿依頼があった時、我が国泰寺高校の青春の時間が頭にパッと浮かんできました。国鉄大竹駅から20分歩いた処の我が家から、蒸気機関車の煙とタバコの臭いのものすごい列車で、学校までの往復3時間半をかけての通学。

乗り物に弱い身には本当に大変でした。1年生の秋になるまで車酔いで机に伏せっているあり様で、勉強には全然興味がわかず、「和式の英語」にも、「計算の方法のみやみくもに教えようとする数学」や、「年代と出来事のみ並び立てる日本史」等にも、私にとっては、本当におもしろくもない授業の連続でした。1本列車に乗り遅れれば、次の列車までを1時間くらいは己斐駅で、雪の中でも外で待っていたりするような時代で、極めてゆっくり時間が過ぎていました。

叙勲の伝達式で奥様と

そんな高校生活の楽しみは、列車の中や待ち時間に、岩波新書を、新しい世界が広がるような気持ちで、ワクワクと夢中で読んでいました。今もその時の読書癖から、「週刊エコノミスト」などの経済関係や歴史の本等々を50年近く読み続けています。

出来の悪い私にとって、これが教科書であり先生でした。高校2年生の4月、3週間盲腸炎で休み、6月には国家公務員であった父の死去。それから母は、なれない「力仕事」に行くようになり、仕事が終わり、夕方田圃の畔路を疲れたなと感じさせるように帰ってくる姿を見て、勉強が好きでもない私は就職しようと思いました。

高校卒業後、税務署の研修所に入り、公務員生活を4年半お世話になり退職。その後、土方、運転手、ホンダなどで期間工をしながら、立命館大学に通いながら年も重ね、曲がりなりに自分の進むべきことを日々、考えるようになっていました。当時の司法試験の挑戦は、お金が無いので、半稼半勉強でかつ完全独学でやるには、ハードルが高く、無理と判断し、会計の知識が若干ある公認会計士なら必ず短期間に合格すると思い込み受験を決めました。

「おふくろ」は、子供達を「怒る」ことは、ハワイ帰りのおおらかな性格からか全然しない人でした。子供達への口癖は「うちゃー、解らんけー、自分の思うようにしんさい。」でした。いろいろな物事の選択をする時、自分の頭で考え、結論を出すしかありません。また、大阪の浩陽監査法人の代表者であった恩師稲井幸晴先生の教えである、「あるべき事は、あるようにする」と「一歩一歩着実に人の3倍努力すれば、一人前になる。」をいつも頭に入れて日を重ねるうちに、早や、もうこんな年になってしまいました。

おふくろが93歳、ちょうど東日本大地震の2日後までの命でした。思い出せば私が日本公認会計士協会中国会会長、本部の常務理事になった時、「あんた、ようーやったね。」とただ一言。非常に嬉しく、今もって私の心を飾ってくれています。一昨年秋には旭日小綬章の栄誉に浴しました。高校時代は、大竹の田舎から大都会の、あこがれの旧広島一中に通学したことで、番匠君、政岡君、田丸君をはじめ、多くの仲間と知り合えたことが私にとって大きな人生への褒美です。有り難うございます。

（広島市中区）

## 関東の地ではぐくむ鯉城の縁の不思議さ

昭和43年卒

内藤（旧姓 大山）　千恵子

4年前、4って3ん会（昭和43年卒の同期会）で頂いた鯉城同窓会報の「私の近況」に、マレーシアに移住して今年で13年になります。マレーシアでは、クアラルンプールを拠点にしてシニアバックパッカーとして世界中を旅して歩いています。最初は主にアジアを旅していましたが、年金が入るようになってからは、ヨーロッパ、アフリカ、南米などにも足を延ばしています。短い旅だと2週間くらい、長い旅だと3カ月くらいです、クアラルンプールには体を休めに帰ってくるという感じでした。

主人は私に「あなたはまるで明日がないような生き方をしている」と言いますが、何があっても悔いが無い生き方をして来たと思います。今はコロナでどこへも行けませんが、たまには休みも必要とダウンタイムを楽しんでいます。

6月初めからシアトル暮らしです。何カ月か娘たちや孫たちと過ごし、またマレーシアに戻る予定です。現在マレーシアは人口比率に対するコロナの患者数がインドを抜いて世界一になってしまいました。

筆者の磯野さん

私はどこの国にも属さないアウトサイダーになってしまいましたが、旅行をしていると私のようなアウトサイダーに会うことが増えてきて、会話が弾むのが嬉しいです。楽しい思い出をいっぱい集めていきたいと思います。

（マレーシア・クアラルンプール）

# 私の近況

## わが人生支え続けたバスケットへの情熱

昭和45年卒　杉原　繁

今年4月に70歳を迎えました。コロナ禍で我慢の日々が続く中、週2~3回のジム通いや住まい周辺でのウォーキング等で体力維持に努め、近くに住む孫達と一緒に近場に出かけたりしてのんびりと過ごしています。

私は広島県内の高校の保健体育の教員として、長年全国大会を目標にバスケットボール部の指導にあたってきました（広商・皆実・観音）。また、協会や高体連の役員としても、バスケットボール競技の大会運営や競技力向上等にも携わりました。中学生や高校生にとって、自分の好きな部活動に目標を持って取り組むことは、大変有意義な事だと思っています。

高校時代のある試合の開始前
（左から2人目「7番」が筆者）

私自身も母校に在学中は、先輩方のご指導を受けながら全国大会を目指してバスケットボールに打ち込み、二年次に地元広島で開催された全国高校総体（インターハイ）に出場しました。人生の貴重な思い出です。

私は65歳で現場での指導は退きましたが、これからもバスケットボールに関わって行こうと思っています。

コロナ禍で部活動が休止になったり、大会も延期や中止、また無観客で開催されたりしています。コロナが早く収束する事を待ち望んでいます。

（広島市安佐北区）

## 頼りにしてます級友とのライン

昭和51年卒
西（旧姓 河原）　敦子

平成20年より、大学で教員養成に携わっています。国泰寺高校の卒業生に出会うと嬉しくて「私もよ」と、もれなく声をかけています。若い人と接する仕事は楽しいですが、「スカッとさわやか、○○○○」というキャッチコピーを知っている人は？と聞いても無反応で、年代のギャップを感じるこの頃です。

プライベートでは、11年前に夫が他界し、一昨年娘が結婚したので、とうとう一人暮らしとなりました。今は時間に追われ、寂しさは感じませんが、退職後はどうなるのか想像がつきません。自由時間たっぷりで悠々自適？それとも孤独？…どんな状況になっても、きっと友の中にいると思います。

それは、国泰寺時代のクラスメートで作っているＬＩＮＥグループ。みんなお茶目で、親切で、ユニーク。何か呟くと、必ず機転が利いた返事が返ってきます。私が「娘が初めて彼氏を連れてきた。お茶菓子出すべき？」と聞くと、「なくていいんじゃない」「いや、茶菓子だして食べ方観察しよう」てな具合。

誰かが「病気の私を置いて夫が車でテニスに出かけた」と嘆けば、「夫、足の小指タンスにぶつけますように」「夫、いちいち信号赤になりますように」「種なしブドウだけど、夫にだけ種ありますように」と軽いジャブ。大爆笑して、心のモヤモヤも解消です。頼りになる仲間たち、これからもよろしくね。

（広島市西区）

## コロナ禍収束を願い東京で仕事

昭和61年卒　古本　里恵

私は、２００１年の春に、当時在籍していた会社の転勤で東京にまいりました。現在は、ＩＴベン

鯉城東京同窓会で昭和 43 年卒の同期生が集う
（前列左から４人目が筆者）

窓会東京支部の機関紙をテーブルに置いていたら　夫の素っ頓狂な声がしました。「あ！国泰寺中学で中3の時の同級生が・・・・」。その方が東京支部の会長中村怜次さん（昭和40年卒）でした。同期の土屋（旧千代）康子さんの勧めもあって東京支部の定例会に出席し、そこで中村さんに電話番号を伺い、後日　夫が電話で半世紀ぶりに声の再会。話は弾み、お住まいが我が家からなんと車で10分足らずの同じ八千代市内という奇遇もありました。

ひょんな事のふたつ目。3年前、4って3ん会のお世話役で同期の浜田景介君にラッキョウを漬けてもらうことになり、漬けたラッキョウが重いので夫に浜田家まで同行してもらうことにしました。浜田夫妻は高校の同級生同士のカップル。国泰寺中学卒でもある奥様浜田（旧田村）良江さんが夫と話しているうちに奥様のお兄様（寛さん）と夫が国泰寺中学3年の同級生であることが判明。さらには浜田君が夫の大学の後輩で学部学科まで一緒とも分かりまたびっくり。

こうしたご縁もあって中村ご夫妻と浜田ご夫妻とはそれぞれ食事会を楽しんでいます。その後、中村怜次さん、田村寛さん、池本悠美さんと夫の4名で国泰寺中学のミニ同窓会が開かれました。国泰寺は中高一貫校だったかしら・・。

（千葉県八千代市）

# 私の近況

GANBARISM

ダーで業務改革コンサルタントのような仕事に携わっています。

昨年、思いもよらぬコロナ禍により、生活は一変しました。私の会社では緊急事態宣言前からテレワークが推奨されていたのですが、宣言発出後は顧客訪問の自粛などもあり、殆どの日を自宅で過ごす毎日になりました。昨年度は、自社に出社したのはわずか2日。同僚やお客様とは、主にオンラインミーティングでコミュニケーションをしています。

広島には実家に母が一人で居ますので、毎週末には電話で話をしています。昨年末はコロナ禍で帰省を断念したため、最近は「早く帰ってこられたらいいのにねぇ」と言われると、寂しい思いをさせているなと、少し辛い気持ちにもなります。

同級生や先輩後輩の皆さんとは、鯉城同窓会を通じて沢山の方と交流させていただいております。コロナ禍でお会いできない状況ですが、SNSなどで近況を知り、元気をいただいています。

まだまだ心配な日々が続きそうですが、1日も早く安心して行き来できる日が来ることを祈っています。

（東京都中央区）

## 「学ぶ楽しさ」を子供に伝えたい

平成18年卒　森脇　勇太

私は現在、広島県内の小学校で教員をしています。私が日々、子供達に伝えていることは、「何事にも楽しみを見出せるようになってほしい」ということです。友達との遊びはもちろんのこと、知ること、学ぶことも楽しいことです。生活のいろいろな場面に、学びは隠されています。学びの世界に気付き、ワクワクしながら自分から入っていければ、これからの変化の激しい社会にも「楽しんで」一歩を踏み出せるようになるのではないかと思います。

現在のコロナ禍の現状は、子供達にとって厳しいものです。感染予防のため元気よく大きな声が出せない、マスクのため笑顔など表情が伝えにくい、対面でのグループ活動やディスカッションができない…。危機を避けるため、主体的な学びの学習どころか講義形式の授業にせざるを得ないのです。

「いや、もっと何かできないか？」学級の子供達と思案し、動画配信サービスで学習の成果を発信したり地域の魅力をパンフレットにして他地域に伝えたりすることを始めました。この逆境でもやれることはまだあるはずです。子供達からもあふれ出てきています。私自身もワクワク楽しみながら広島の未来を創る子供達に「学ぶ楽しさ」を少しでも伝えていきたいと思います。（広島県庄原市）

## 柔道を通じて素敵な出会い

平成8年卒　横田　英一郎

近況ではないのですが、私が高校時代に熱中していた「柔道」について話させて頂きます。

中学1年生から柔道を始め、当時の国泰寺高校柔道部顧問、故河野忠嘉先生に憧れ入部。

河野先生は「生徒を強くする」という情熱に満ち溢れ、怖くもありユーモアもあり、そして誠実で優しい方。練習漬けの毎日ではありませんでしたが、良いチームメイトにも恵まれ、とても充実した柔道生活でした。

その縁で28歳の時から12年間、広島市南区柔友会スポーツ少年団で河野先生と共に小中学生を指導。柔道の面白さと奥深さ、そして人を育てることの難しさと尊さを知ることが出来、私の掛け替えの無い財産になっています。

当時の柔道部の集合写真
（最後列左から6人目が筆者）

現在の私は我が子の子育て真っ最中で柔道の指導は休止していますが、つい先日、柔道を志す少年と会う機会がありました。彼も心技体を鍛錬し、立派な社会人に成長して欲しい、そしてこれから柔道を通じて素敵な出会いがあることを切に願っています。

最後に鯉城同窓会の皆様、柔道部OBOGの皆様の益々のご活躍、そして母校の柔道部復活を祈念して結びとします。ありがとうございました。

（広島市中区）

## 恩師の顔を思い教員として奮闘

平成28年卒　中山　美波

国泰寺高校を卒業してから、早くも5年の月日が経ちました。あっという間の日々でしたが、かつての同級生の結婚や出産の報告を聞くと、時の流れを感じます。私は卒業後、大学の教育学部に進学しました。昨年から高校の時からの夢を叶え、高校で教壇に立っています。

私が教員を目指したきっかけは、他でもない国泰寺高校での恩師との出会いです。時には厳しく、時には優しくご指導くださった先生方にどれほど愛情をもって接していただいていたか、現在の立場になってあらためて実感しています。

日々、初めての連続で自分の無力さに落ち込むこともありますが、子どもたちの笑顔や言葉一つが元気を与えてくれています。

平成から令和に時代が変わり、私自身が高校生だった時とは異なることも多くありますが、それでも変わらないものは夢をもつ高校生たちの力強さだと感じています。

無限の可能性を秘めた子どもたちに対し、自分たちの力で未来を切り拓いていく手助けが少しでもできたらいいなと、恩師の顔を思い浮かべながら奮闘する毎日です。

（広島県福山市）

# お悔やみ申し上げます

（令和2年10月1日～同3年7月25日の間の死没者で過去掲載されていない方々、敬称略）

阪本昭司（旧教職員）
高橋　久（旧教職員）
西田　宏（旧教職員）
福本賢司（旧教職員）
船倉　禎（旧教職員）
上田睦生（昭11年）
三宅貫一（昭13年）
胤森幸徳（昭17年）
三山一郎（昭17年）
八木直彦（昭17年）
勝田静知（昭18年）
武久　熙（昭18年）
平山吉雄（昭18年）
杉山俊彦（昭19年）
滝本哲郎（昭19年）
竹内健三（昭19年）
中原晃雄（昭19年）
槙田　勉（昭19年）
多久康雄（昭20年）
田辺哲弘（昭20年）
刀禰俊一（昭20年）
貞比良篤郎（昭20年）
藤本　忠（昭20年）
中村　貢（昭20年）
檜山幸生（昭20年）
神尾年人（昭21年）
三嶋信義（昭21年）

武田　寛（昭22年）
刀禰道正（昭22年）
安田佳三（昭22年）
井上義國（昭23年）
鎌田喜四郎（昭23年）
築地敏行（昭23年）
長岡公正（昭24年⑤）
小島正明（昭24年⑤）
兒玉進次郎（昭24年⑤）
岩崎正衛（昭24年⑤）
橋岡　武（昭24年⑤）
藤本博光（昭24年⑤）
福間駿吉（昭24年⑤）
三上周三（昭24年⑤）
宮脇　潤（昭24年⑤）
大前正明（昭24年鯉）
佐藤旨孝（昭24年鯉）
世良邦治（昭24年鯉）
兒玉光雄（昭24年鯉①）
竹西正志（昭24年鯉①）
渡辺輝房（昭24年鯉①）
門村　浩（昭24年鯉併）
児玉健次（昭24年鯉併）
菅田圭之右（昭24年鯉併）
鈴木尭士（昭24年鯉併）
増田秀雄（昭24年鯉併）
松井　清（昭24年鯉併）
亀山昌巳（昭24年鯉定）

今田ミエ子（昭25年）
勝田主計（昭25年）
関　千枝子（昭25年）
宍戸和子（昭25年）
槌本康二（昭26年）
宇野千枝子（昭26年）
宮地　誠（昭26年）
松田四郎（昭26年）
上西彬允（昭27年）
増田　薫（昭27年）
増西　満（昭27年）
丸本保之（昭27年）
村上昭雄（昭27年）
出口美恵子（昭28年）
宮本総子（昭28年）
花岡不二男（昭28年）
山縣哲和（昭28年）
東　鶴三（昭28年定）
升本弘子（昭29年）
木本勝久（昭29年）
四竈　招（昭29年）
村上精一（昭29年）
吉岡　慈（昭29年定）
友田睿子（昭30年）
宮田孝子（昭30年）
野坂元興（昭30年）
前田　薫（昭30年）
泉尾勝昌（昭30年定）

上田博正（昭30年定）
武藤克彦（昭30年定）
鏡田　隆（昭31年）
鈴木達三（昭31年）
住田泰博（昭31年）
吉村久美子（昭31年）
宍戸省三（昭31年定）
南原数則（昭31年定）
杉山康彦（昭32年）
平林義孝（昭32年）
木下喜代子（昭32年定）
松本利典（昭32年定）
今田俊行（昭33年）
中村映子（昭33年）
香川まゆ（昭33年）
山崎雅邦（昭33年）
児玉美孝（昭33年定）
門出英介（昭33年定）
喜代吉規男（昭35年）
新川洋一（昭35年）
高山秀雄（昭35年）
信本一志（昭35年）
丸橋良基（昭35年）
久保義行（昭35年定）
平田俊英（昭36年）
村田泰俊（昭36年）
小田　肇（昭36年定）
大塚実躬（昭37年定）
沖政進一（昭37年定）
田川主彦（昭38年）
池田雅人（昭39年）
児西清義（昭39年）
浜室賢治（昭39年）
八尾和弘（昭39年）

大畦正雄（昭40年）
三元俊一（昭40年）
尾崎博哲（昭41年）
河野清隆（昭41年）
増田民子（昭41年）
大上睦雄（昭41年）
浜田敬一（昭42年）
吉森数男（昭42年通）
岡　比路志（昭43年）
長岡二三夫（昭43年）
奥野勇男（昭44年定）
福山富士子（昭44年定）
井上真佐子（昭45年）
下甲啓文（昭48年）
尾本恵子（昭48年）
坂根一也（昭48年定）
羽藤史子（昭51年）
瀬戸アイコ（昭52年通）
池田　寛（昭53年）
大瀬戸　聡（昭54年）
今村弘三（昭55年通）
田栗雅彦（昭56年）
山下千尋（昭58年）
佐村田純子（昭63年通）
篠原寿美江（昭63年通）
平田ツルエ（平2年通）
野口十六和（平5年定）
西原夏輝（平26年）

# しめやかに一中慰霊祭

旧制広島一中の原爆死没者慰霊祭が7月25日、母校正門横の慰霊碑前で営まれ、遺族や母校、同窓会関係者ら約70人が参列した。

母校の大林秀則校長が、原爆投下時の惨状に触れ「本校から世界に平和を発信していくことを誓います」と追悼の辞。鯉城同窓会の森信秀樹会長は、母校の後輩たちに「犠牲になられた方々の思いに寄り添って、前を向いて進んでもらいたい」と呼びかけた。

その後、遺族会代表らの献花、愛唱歌「鯉城の夕」の静聴と続き、参列者全員が花を次々に慰霊碑に手向けて散会した。

コロナ禍の影響で、昨年から規模は従来に比べて大幅に縮小。この日、在校生約900人は登校し、各教室でマイクの音声に耳を傾けながらリモート参加した。

慰霊碑に花を手向ける参列者

# 被爆死の父偲び藤井さん初参列

一中慰霊祭に、広島市中区牛田早稲田の藤井房子さん（79）が初めて参列した。父親の桑田清さんは一中の元教頭で、被爆後、教え子の救助に奔走した。藤井さんは亡き父を偲び、碑に向かって静かに手を合わせた。

原爆が投下された時、職員室にいた桑田教頭は、大きなテーブルの下に潜り込んで助かった。多くの1年生が、校舎の下敷きになり亡くなった。桑田教頭は息のある生徒を大八車に乗せては、安全な場所に運び続けた。家族と会えたのは何日も後。まもなく寝ついて、8月29日に死去した。47歳だった。

火葬場など間に合わない混乱期。藤井さんの兄2人が農家に薪を買いに行き、公園で遺体を茶毘（だび）に付した。

藤井さんは、桑田教頭の9人の子供のうち末っ子の四女。父親が亡くなった時は4歳になったばかりだった。「父が元気なころ、幼い私をよく抱っこしてくれたようですが、私は父のことはほとんど覚えていないんです」と藤井さん。

あの日、藤井さんは家の外で遊んでいて、空からいろんなものが降りかかる中、母親がとっさに覆いかぶさってくれて命拾いした。その母は、ガラス片が体中に突き刺さり、藤井さんが10歳の時に亡くなった。

中学卒業まで祖父母に育てられ、その後は福岡県の親類宅に身を寄せ、奨学金をもらいながら高校に通った。他の兄弟もちりぢりになり、それぞれ苦学して、その後の人生を歩んだ。

藤井さんは毎年、8月6日の早朝、平和公園の原爆慰霊碑と一中慰霊碑への参拝を、個人的に続けてきた。一中慰霊祭には兄の誠さんが参列してきたが一昨年死亡。藤井さんが今回、遺志を継ぐ形になった。

両親のほか、4人の兄姉を原爆由来と思われる病気で失った藤井さん。「戦争によって、弱者や子ども、若い人が犠牲になるんです」と話し「何があっても戦争をしてはいけません。核を廃絶しなくては」と強調する。心の底からの願いである。

一中慰霊祭に初めて参列した藤井房子さん

故 桑田清 教頭

写真は国立広島原爆死没者追悼平和祈念館提供

## 編集後記

会報はこれまで毎年年末に発行されてきた。これをお読みいただいている今はおそらく8月。「年度初めに近づけて発行できないか。年度ごとの方針を早く紹介するためにも…」。そんな要望にこたえるために、「伝統」を今回思い切って見直してみた。

路線変更には、別の理由もあった。「危篤とまでは言えないが、いま手を打たなければさらなる悪化も」。わが同窓会の収支状況を例えで言えば、そんな表現になるだろうか。今回の会報は、現状を率直に報告し、皆さんの協力を求めるのが大きなテーマ。そのためにも、少しでも早くお届けする必要があった。

事態改善に向けて、最初に動いたのは昨年就任したばかりの森信会長。何度もやり取りしたメールから、本気度がひしひしと伝わってきた。「一緒に燃え尽きましょう」という心に残る文言もあった。会報編集委員会として、それに呼応すべく、全力で編集作業に当たったつもりである。

会員の皆さんがこの会報をお読みくださり、最終的な判断がどうなるのか。ここが最大のカギになる。もしかしたら執行部の独り相撲になる恐れも…。人事は尽くした。編集作業を終えた今、「まな板の鯉」の心境を味わっている。（大石）